



週刊ゴールド

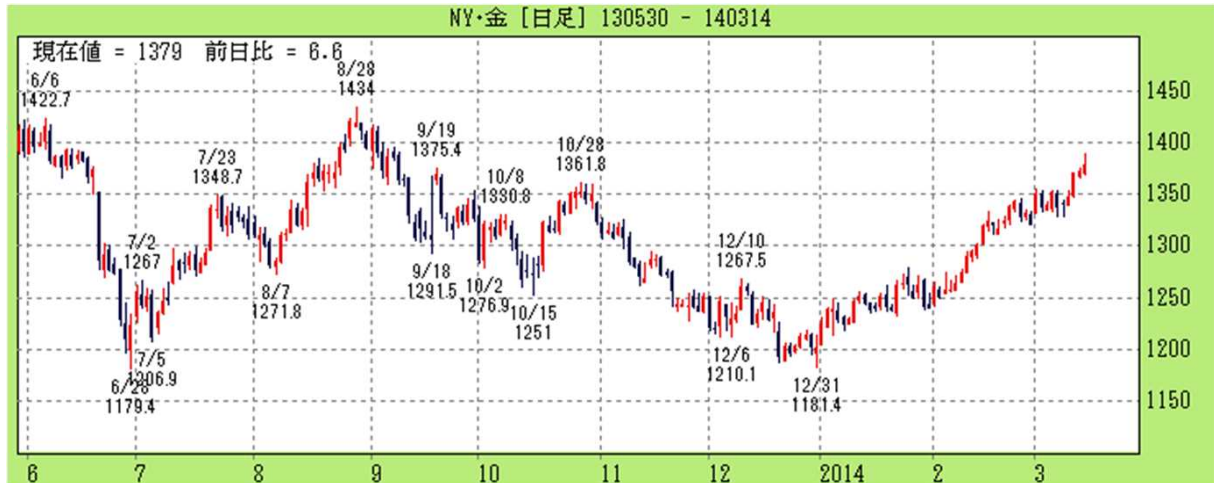
金の投資判断に必要な情報がここに凝縮されています。

毎週月曜日夕方発行



NY金 3日続伸

発行日 : 2014/3/17



週末14日のNY金4月限は6.60ドル高の1379.00ドル。金4月限は、ウクライナ住民投票が接近するなか、逃避買いが続いて年初来高値を更新した。ロシア軍進攻の計画ないと外相発言で押し込まれたが、戻り歩調となった。安寄りしたが、ウクライナ緊張を背景とした思惑買いで前日高値（1375.7ドル）を上回った。戻り売りで序盤の安値を下回ったが、ドル安でプラスに浮上した。本日ロンドンで予定される米外相会談を控え、模様眺めムードが広がった。立会時間は、強基調を引き継いで投機買いが入り、時間外取引の高値を抜いて年初来高値を1388.4ドル（16.0ドル高：1.2%）まで更新した。2013年9月9日以来の高値水準。米生産者物価指数（PPI）は低下し、米国のインフレ沈静を示したものの、16日の住民投票が実施されれば対ロ制裁が17日に発動されるとみられるため、逃避買いや売り方の買い戻しが優勢になった。ドル安・株安・原油高も支援材料。上昇が一服したあと、ロシアのラブロフ外相がロシアはウクライナ南東部に軍を進める計画はないと発言したことから1373.8ドルまで下押されたが、週末のウクライナの住民投票接近で売り方が買い戻しを迫られ、戻り歩調となった。引け後、米商品先物取引委員会（CFTC）が発表した

Wall Street Journalによれば、海外の中央銀行が保有する米国債の保有高が右グラフのように大量に売却された。おそらくロシアが米国債を売却してオフショアのどこかに資金を移したものと思われる。今週米連邦準備制度理事会（FRB）のCustody for foreign official and international accountsのデータは、1,050億ドルの減少をみせ、2兆8550億ドルに減少した。昨年12月には最高の3兆200億ドルあった。

一方で、同紙は、14日の米国債市場では長期債が5日続伸。ウクライナの政治危機と中国の景気減速をめぐる懸念が安全逃避資産を押し上げる中、指標銘柄の10年債は昨年9月以来で最長の上げ相場を記録した。ソシエテ・ジェネラルの米国債トレーダー、アンソニー・クロニン氏は「クリミアやウクライナ東部で週末に何かが発覚するかもしれないという不安や、中国の成長と信用バブルに対する懸念の継続が、引き続き債券市場に追い風となっている」と述べた。

（つづく）

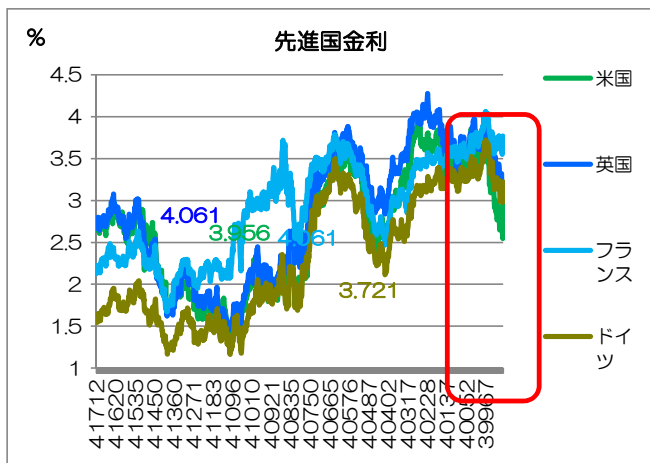
米国の国債が海外から大量に売却されたが、安全資産としての米国債は買われている。

Big Dip

Foreign official holdings of Treasuries held in custody at the Fed, in trillions.



Source: Federal Reserve | WSI.com

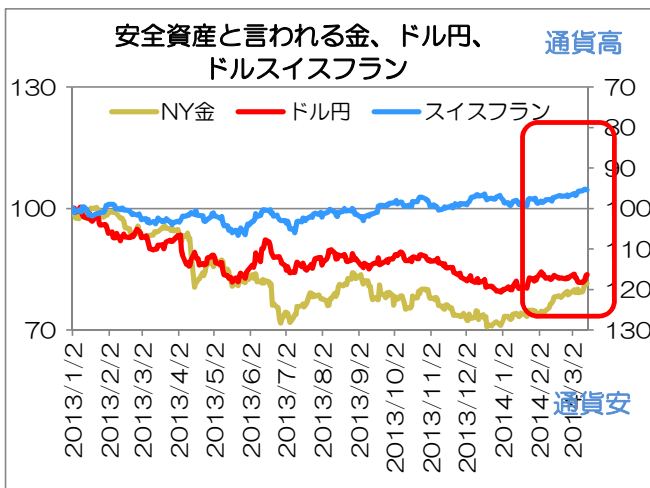


Wall Street Journalによれば、消費者や企業の借り入れ金利の指標となる10年債利回りは今週、昨年9月以降で最大となる0.14ポイント低下した。10年債利回りは先週7日、雇用統計が予想を上回る強さとなったことを受けて、6週間ぶりの高水準の2.821%をつけていた。

ウクライナ危機が制御不能となり、地政学的な緊張が世界経済見通しに及ぼす影響の度合いが債券相場を左右するようになれば、米国債利回りはさらに低下する可能性がある。

米国三菱UFJ証券の米国債取引グループのエグゼクティブ・ディレクター、トーマス・ロス氏は、米国債市場は「かなりの不安を織り込んでいるため、実際に

安全資産と呼ばれる円、スイスフランと金



2013年1月4日を100とした指数でNY金、ドル円、スイスフランを見ると、スイスフランは強くなっており、ドル円は弱くなっていたのが直近では少し円高に振れている。金は12月を底に上昇している。

金は年末に28.8%安くなり、先週末は18.5%安まで盛り返している。円は、年末まで20.6%安くなり、先週末は13.7%安まで盛り返している。スイス

	NY金	ドル円	スイスフラン
2013/1/2	100	100	100
2013/12/31	▲28.8	▲20.6	+2.7
2014/3/7	▲20.7	▲18.2	+4.3
2014/3/14	▲18.5	▲16.3	+4.6

3月18日~19日はFOMC

明日から明後日にかけて米国連邦準備制度理事会（FRB）は連邦公開市場委員会（FOMC）を開催する。Janet Yellen 新議長にとっては初めての会合となるが、月間の債権購入金額が650億ドルから550億ドルに減少するいわゆるTapering（金融緩和の縮小）が行われるかが注目される。また、金利のFORWARD GUIDANCEが改訂されるかどうかとも注目されている。現状6.5%の失業率のターゲットと共に、インフレターゲットが新たに創設されるかどうか、来年夏頃とされる利上げの時期について新議長が見解を述べるかどうかなどが注目される。いずれにせよ、その時点で金価格は調整安になる可能性がある。

今後の米国の雇用情勢の回復は金価格を押し下げる by ドイツ銀行アナリスト Gullon Desk

2011年9月を頂点に始まった金価格の下落トレンドは、短期的に回復傾向にあるが、3ヶ月は続かず、15%回復すれば良いところだろうとドイツバンクのアナリストは述べている。昨年12月からの金価格の上昇は、第2四半期には下落の危険にさらされるという。金価格は14日1388.15ドルと昨年12月の1182.45ドルの底値から205.70ドル上昇している。しかしまだ2011年の1921ドルという天井からは下落の基調にあるという。現在の金価格上昇の背景には米国の雇用情勢が弱いことがあるが、これは米国の寒い冬のせいであった。天候の影響が収まれば、今後米国の実質経済データは急激に良くなるだろう。たとえば、1996年1月から2月にかけて寒い冬の後に、米国の雇用は70万人も増加したことがある。今年そんなによくなるとは思えないとしても、年内に米国の景気が力強く回復して、金価格は下落のリスクにさらされるだろうという。

米労働省が13日発表した3月8日終了週の新規失業保険週間申請件数（季節調整済）は前週比9000件減の31万5000件となり、前年11月末以来の低水準となった。33万件に増加するとの予想に反して減少したことで、労働市場が力強さを増している可能性が示された。労働市場のすう勢をより正確に示すとされる4週間移動平均は6250件減の33万0500件と、12月初旬以来の低水準となっている。

中国の現物市場は静か by シンガポール ロイター

ロイター電によると、NY金価格はウクライナのクリミア半島帰属問題で、ここ半年で最も高い価格になっている。景気が減速して安全資産への需要が伸びるとして今年15%も価格は上昇している。17日のスポット価格は1383.60ドルと0.1%上昇。一時は1391.76ドルと9月以来の最高値を付けた。一方でアジアの株価は1か月ぶりの安値となっている。

中国の現物市場は、価格が1400ドルに近づいたことで数か月以内に下落するとの思惑から売れ行きが止まっている。中国では現物スポット市場の金価格は▲6ドルのディスカウントになっている。今年初めの旧正月前は20ドルのプレミアムであったことと比べるとプレミアムは大きく下落している。旧正月後は香港の金取引は静かであるという。人々は、価格は再び下がるからそれまで待つという姿勢である。

プラチナのストライキ進展なし

Anglo Platinum、Impala、Lonmin三社のサイトを毎日見ているが、3月5日付けの労働組合に対する回答のプレスリリース以来何のストライキ情報も載っていない。またSouth Africa Business Report誌によると、すでに2か月近く経過している南アのプラチナ鉱山ストライキでは、組合側の給与未払い額は38億ランドに達し、会社側は86億ランドの売り上げが喪失していると述べている。南アフリカ鉱山会議所（Chamber of Mine）のプラチナ賃金交渉に関するホームページには、こうした労使双方の損失が、カウンターになって表示され、一秒ごとに増えている。このホームページによれば、最新の回答は3月14日のAnglo American Platinum、Impala Platinum、Lonmin三社の共同コメントで、CCMAやChamber of Mineが労使交渉に関わる多大な役割は認めているがそれ以上のコメントは無いとのプレスリリースが載っているだけである。CCMAとはthe Commission for Conciliation, Mediation and Arbitration（仲裁調停裁定委員会）である。そちらのホームページにも3月5日以降何の進展も書かれていない。

鉱山会議所のカウンター（<http://www.platinumwagene negotiations.co.za/latest-news/2014>）が動いている限りストライキは続いていると思われる。

1日当たりの3社のプラチナ生産量は約300kg

Anglo Platinum、Impala、Lonmin三社の合計生産量は約300kgと報じられている。すでに1月20日からストライキは始まっており、3月17日で56日が経過している。合計では▲16トン800kgのプラチナ生産が今年の実績から減少している。これ以外にNORTHAM PLATINUM社が年産約10トンで、同社は、11月3日から1月21日まで79日間操業が停止し48000オンス（▲1トン490kg）の生産が喪失したと述べている。3社と合わせると▲18トン290キログラムが今日まで生産が喪失されていることになる。プラチナは、2012年が▲10.6トン、2013年が▲18.8トンと2年連続の供給不足であったのに加えて、すでに昨年並みの生産減になっている。

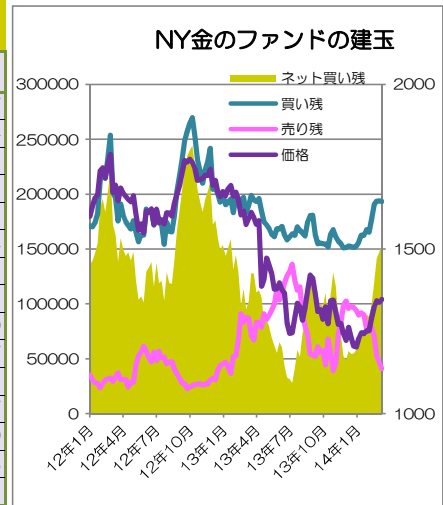
昨年の生産量でいえば、世界のプラチナ生産量は、178.5トン、そのうち南アが72%を占め128.1トンである。およそ月間10トンの生産量であった。▲18.3トンといえば、およそ2か月分弱の量であり、3年連続で2か月分弱の需給がひっ迫していれば、鉱山に在庫が残っているとは考えにくい。実際、鉱山会社は3月中に在庫はなくなると述べている。

プラチナ価格はほとんど上昇していないが、もしかすると商社が大量に現物を買ひ、その反対取引として先物で売り建てているのかもしれない。そうであれば、商社の売りは先行き買い戻すことになり、買い戻し量が以前より増えていけば、おのずと価格は上昇するであろう。まさか投機筋がこれだけのタイトに向かって空売りしているとは思えない。

プラチナ価格はおそらく現物価格から上昇を始め、今後相当価格は上がっていくのではないと思う。

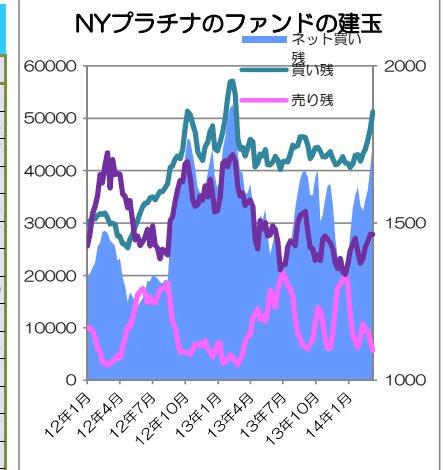
NY金のファンドの建玉

までの週	取組高	買い残	売り残	ネット買い残	増減	価格
12月3日	641,036枚	151,150枚	102,614枚	48,536枚	▲3,691枚	\$1,221.7
12月10日	629,838枚	152,770枚	95,868枚	56,902枚	+8,366枚	\$1,262.4
12月17日	656,536枚	152,056枚	97,530枚	54,526枚	▲2,376枚	\$1,231.2
12月24日	667,491枚	151,256枚	96,669枚	54,587枚	+61枚	\$1,205.1
12月31日	628,586枚	152,452枚	94,136枚	58,316枚	+3,729枚	\$1,201.9
1月7日	630,115枚	156,270枚	89,792枚	66,478枚	+8,162枚	\$1,229.4
1月14日	664,721枚	162,705枚	91,741枚	70,964枚	+4,486枚	\$1,245.2
1月21日	663,764枚	162,253枚	89,976枚	72,277枚	+1,313枚	\$1,242.3
1月28日	608,056枚	167,696枚	77,419枚	90,277枚	+18,000枚	\$1,251.0
2月4日	602,247枚	165,286枚	76,912枚	88,374枚	▲1,903枚	\$1,251.7
2月11日	617,237枚	177,365枚	78,375枚	98,990枚	+10,616枚	\$1,290.1
2月18日	657,075枚	190,511枚	70,826枚	119,685枚	+20,695枚	\$1,324.7
2月25日	637,838枚	193,673枚	52,359枚	141,314枚	+21,629枚	\$1,343.0
3月4日	656,664枚	193,754枚	46,415枚	147,339枚	+6,025枚	\$1,337.8
3月11日	684,249枚	193,209枚	40,942枚	152,267枚	+4,928枚	\$1,346.5



NYプラチナのファンドの建玉

までの週	取組高	買い残	売り残	ネット買い残	増減	価格
12月3日	63,849枚	41,288枚	17,828枚	23,460枚	▲3,444枚	\$1,354.9
12月10日	64,847枚	41,821枚	18,166枚	23,655枚	+195枚	\$1,387.8
12月17日	66,669枚	42,683枚	19,282枚	23,401枚	▲254枚	\$1,343.7
12月24日	64,120枚	41,417枚	18,339枚	23,078枚	▲323枚	\$1,371.1
12月31日	66,071枚	41,463枚	20,512枚	20,951枚	▲2,127枚	\$1,336.4
1月7日	63,132枚	40,598枚	12,768枚	27,830枚	+6,879枚	\$1,412.7
1月14日	62,918枚	41,236枚	8,473枚	32,763枚	+4,933枚	\$1,431.9
1月21日	63,909枚	42,927枚	7,585枚	35,342枚	+2,579枚	\$1,452.0
1月28日	64,765枚	43,080枚	6,193枚	36,887枚	+1,545枚	\$1,407.7
2月4日	65,378枚	41,821枚	8,439枚	33,382枚	▲3,505枚	\$1,371.8
2月11日	67,112枚	43,230枚	10,794枚	32,436枚	▲946枚	\$1,386.2
2月18日	67,532枚	43,998枚	9,688枚	34,310枚	+1,874枚	\$1,422.9
2月25日	68,681枚	45,794枚	9,458枚	36,336枚	+2,026枚	\$1,441.7
3月4日	70,925枚	47,976枚	7,280枚	40,696枚	+4,360枚	\$1,463.5
3月11日	75,844枚	51,257枚	5,693枚	45,564枚	+4,868枚	\$1,464.0



今後の予想

プラチナ価格は上記で述べた通り強気であるが、金に関しては、FOMCを控え、また中国での旧正月後の需要が、価格が上がったために止まっているという記事を見ると、一時的に下落するかもしれないと思われる。ウクライナの問題は、報道されるほどインパクトはないように思う。住民が決断したことを経済封鎖で圧力をかけたところで覆るわけではなく、ウクライナの複雑な事情は東西両陣営の政治的駆け引きの対象ではあっても軍事的侵攻があるとは思えない。それより、金価格は中国の理財商品や企業の資金繰り等が大きく影響してくると思われる。この場合は金価格は上昇するだろう。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっておりません、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的財産権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかなるを問わず、責任を負いません。